第6回 まちづくり常任委員会会議録

令和2年6月26日(金)

委員会 議室

○会議日程

- 1 開会宣告(10時57分)
- 2 調査事項
(1) 企画政策課所管
①地域交通について
- 3 その他
- 4 閉会宣告(11時55分)

○出席委員(6名)

委員長	2番	斎賀弘孝
副委員長	6番	吉原哲男
委員	3番	植村敦
委員	4番	無量谷隆
委員	7番	西澤裕之
委員	8番	高橋秀之

○欠席委員(1名)

委員	1番	富樫直敏
----	----	------

○出席説明員

企画政策課長	角山隆一
企画調整係長	梶淳
企画G主任	斉藤徹

○議会事務局出席者

事務局長	藤田秀紀
事務局主事	満保希来

齋賀委員長

ご着席ください。

時間早いですけども、早速、委員会を始めたいと思います。

ただいまより令和2年度第6回まちづくり常任委員会を行います。

本日の出席委員は6名です。早速、調査事項に入りたいと思います。

企画政策課所管、地域交通についてであります。これについて、課長より説明をいただきたいと思います。

角山企画政策課長

それでは、私から幌延町における地域交通体系に係る取り組みの現状についてご説明いたします。お配りした資料をご覧ください。

資料左側が、これまでの経緯です。資料の右側が、今後取り組みを進めます地域公共交通実証実験方針の案について記載しております。まずはこれまでの経緯についてご説明いたします。

幌延町における地域交通体系の整備につきましては、当面の間、地域集落の支え合い、助け合い機能の提供や地域集落維持を目的に実施する地域コミュニティ形成事業の一環として、町内において、地域交通体系が脆弱な問寒別地区を中心に制度構築を進めることとしております。また、方向性として、郊外については、今年度採用した地域おこし協力隊2名をドライバーに実証実験を行うことによって、制度のあり方について検討を進め、市街地区については、町内の交通事業者との調整を経て、町全域をカバーする仕組みとすることとしており、議員の皆様に対しましては、全員協議会等の場で状況をお知らせし、地域交通体系の構築については、喫緊の課題であること、行政のみの取り組みでは、町全域をカバーする仕組みを構築することが困難であること、事業実施に係る人材確保が課題であること、制度設計に向けて、関係者間で協議が必要であることを共通の認識としているところでございます。

町といたしましては、その後、本年の4月に地域交通体制整備を含めた集落支援を担当する地域おこし協力隊2名採用しております。また、10月にも1名採用の予定となっております。

また、5月には車椅子対応の地域交通用車両を購入いたしました。

また、今月から、実証実験運用に向けて、保健センターと連携して、町の介護予防事業に係る参加者の送迎について取り組みを始めています。

今後は持続可能な提供体制の構築に向けて、ドライバーや調整役と運用に係る必要人員、既設事業者との調整、利用対象者、利用範囲、利用時間の把握、福祉有償運送への一般町民との混乗と福祉有償運送サービス者との連携の検討を進めてまいります。

次に資料の右側、地域交通実証実験方針案についてご説明いたします。

地域交通実証実験につきましては、課題の検証及び検討を行うため、問寒別地区において、各種団体の総会や例会、地域イベント等に協力隊員が伺って情報収集に努める考えでございましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、その機会がられなかったこと。また、都市間移動自粛によって、地域づくりや生活サービス制度の構築、また人材育成を目的とした支援業務等の発注ができなかったことが要因で、事業全体の進捗が遅れております。

しかしながら、6月以降の規制緩和に伴いまして、先ほどご説明した町事業に係る送迎の開始、また、各種支援事業につきましても、順次実施しているところです。

今後は、協力隊員、集落支援員による情報収集、住民アンケートやヒアリング調査、既事業者の状況把握等により、実証実験に係る方針を固め、利用周知まで進めたいと考えております。以上、幌延町における地域交通体系についてのご説明といたします。

齋賀委員長

今の説明では、今後ニーズの把握方法について、いつまでにやるとかっていうようなことは、まだ、ここでは決まってないから報告できないってことですか。

角山企画政策課長

先ほど申し上げた支援事業の打ち合わせも、昨日ぐらいから始めているところで、そのスケジュールは、もう少し詰めてからにさせていただきます。

齋賀委員長

はい。そういうことだそうです。

ほかに、委員の皆さんから、実証実験の方針について何かお聞きしたいことがあれば、手を挙げて指名を受けてから発言してください。

西澤委員

実証実験に関してのことなんですけれども、実証実験の期間、それと先ほど課長が冒頭話されていたその検証検討を行うということで、実証実験を行った後の検証をするという期間も含めて、どれぐらいを見ているのかを説明願います。

角山企画政策課長

この事業は、令和2年3年で構築していくよう進めておりましたが、令和2年度については、実証実験を始めるところまでこぎ付けましたので、まずは、方針を早急に固めて、そこでのニーズ把握、それを基につくっていくというのが今年度の仕事になるかなと思っています。

西澤委員

議会や全員協議会とかで、何年かずっと、地域交通に関しては、喫緊の課題だということで、その辺は行政とも同じ認識でいますので、3月に予算をつけて車を購入してという話なんですけど、その中で、この実証実験の期間とか、その検証も含めて、もうちょっとスピード感を持っていかないとだめなんじゃないかなというふうには思っています。

地域交通をやりますよって言って3月に予算づけをしている以上、実証実験の期間等がまだ決まってないっていうのは、令和2年度いっぱいをかけてやるのか、実証実験というのは、普通、短くて1カ月間、長くても3カ月か半年というふうなことかなと思うんですけども、その辺、具体的に決まっていないということでもいいんですか、実証実験の期間。

角山企画政策課長

実証実験につきましては、一部運用を6月から開始するというところが、まず第一歩だと思います。

町の事業で、この介護事業を今まで保健センターで対応した部分を、我々でフォローさせてもらうということで、利用者の声も、そういう利用者からもとりながら、アンケート調査もしということで、肉付けをしていきながらっていうふうな考えでございますので、資料の右上に書いてはいるんですけども、その中でサークル等の総会、例会とか地域イベントに

については、今年はなかなか難しい部分あると思うんですけども、そういった機会少ない中でも送迎をできる幅を広げていってというような考えでありますので、今年度6月から始めて、年度一杯はこの方針で実施し、あとは、その方針が固まった時点で、利用の周知もしていかなければ、利用者を拡充できませんし、そのニーズ把握もできないので、具体的なスケジュールとしては、今申し上げられないんですけど、そういう段階でやっていきたいなと思っています。

車も揃えまして、2人ということをやっていますので、そういう中で2人が、適切で回せるのかっていうところも、送迎する事業が増えてくれば出てくるかもしれないんですけども、その辺も先ほど申し上げたように、ドライバーさんと調整役が必要になってくる場合とかは見えてくるかなと思いますので、そういったところで、2人でできる範囲で、基本的には、今年度、実証していくってというような形になります。

斎賀委員長

二人って、さっき説明あった集落支援担当2名、10月1日に追加着任予定って書いてあるから、3人になるんじゃないの。

植村委員

10月以降は3人っていうことでしょ。

角山企画政策課長

そうですね。10月に1人入ります。

西澤委員

地域交通のあり方っていうことに関して、今年度、少しずれがあるのかなと思って。

3月の説明では、地域交通のために車を購入し、そのほかにも、こういうような使い方をしますよっていう説明だったので、地域交通とは別に、こういうような町内行事とかに参加するのも送迎するってような認識で、これが実証実験の段階だとしていうふうな認識ではなかったですね。地域交通の体制をつくるのに、その町内行事に参加するための送迎っていうのは、地域交通の体系のあり方としては実証実験にはなり得ないと思います。これをいくら検証しても、そんなに進まない。これを令和2年度いっぱいをかけて、これが実証実験ですっていう話になると、先に全然進んでいかないと、この地域交通の必要なあり方っていうか、これを利用したい人が、どのように、それを利用していける体系をつくるかっていう話で進んでいかないと、町内行事の参加のために利用する人いませんかっていう話だと、ちょっとまた先が遠くなるのかなというふうに思っているんで、NPO法人の地域コミュニティをやられている方と共同でやるっていう話で、その方が、地域交通に関してもっていう話があるので、その中で、いろんな案が出てくるのであれば、地域交通に関して、今年度、それに向けても実証してほしいなと思いますし、今課長がおっしゃっているこの町内行事に参加するのに、今年度いっぱいかけて実証実験しましたっていう話にはならないというふうに私は思っています。

角山企画政策課長

ただいまのご指摘でございますけれども、まず手始めにというようなことで、町事業やりますけれども、方針案の二つの目の丸にも書いているんですけども、買い物支援ですとか通院支援って部分が、今、ちょうど介護予防事業の送迎をやる中で、利用者っていうのはこの辺の不便さみたいなものも聞き取りができるのかなというふうに考えておりますので、

住民が移動を必要とするっていう本管の部分についても、ニーズ把握はもちろんやりますので、その中で検証は当然していきますし、全体的な先ほど申し上げたとおり町全域の仕組みにするためには、我々だけではちょっと足りない部分がありますので、機会を見て、状況を確認させてもらうっていうようなことも今年度やるべきだと思ってます。

西澤委員

今課長の話は、そのとおりで、保健福祉課の担当、そもそも車購入するときに、山下主幹と少し議論しましたが、おおよその人数は、私が把握している部分では、それぐらいだろうというふうに思うので、車のサイズでいいんじゃないかなっていうふうには、意見しましたけれども、そもそも対象者をどこにしているのかっていうことは、町全域にかかわることなので、その辺はどうなんですかね。あらかじめ対象者というものを想定して、事業を行ってるはずなので、その対象者っていうのは、どの辺に置いてるんですか。

角山企画政策課長

地域交通の全体の事業としては、広く町民ということになると思います。

それが最終的な目指す形なんですけども、今、実証実験で行う範囲については、市街地区以外の方が事業に参加するために、送迎が必要というふうな認識でいますので、そこは実証なので、郊外の利用者から声を聞いていくっていう作業ですけども、片やこの事業については、交通体系が脆弱な問寒別地区から仕組みをつくって、全町に広げていこうというその考えに変わりありませんけれども、広く声はとれるっていう意味では、実証実験段階では、ちょっと重なる部分もあるかもしれませんが、声は聞いていきたいなと思ってます。

西澤委員

地域交通の対象者って、広く町民ではないと思うんですよ。広く町民にしたら、広くっていう意味合いがどこまで広いのか、全町民を対象にして地域交通体系をつくるわけではないと思っています。

それは、必要としてる人が必要としている人っていうのをどこに定義するかっていうのは、様々だと思うけれども、その対象者っていう人を、担当課としては、企画の段階で、どこにしているのかっていうのは、明確じゃないと事業が進んでいかないので、広く町民という話になると、例えば、市街地区でやりますよというときに、広く町民という話にはならないでしょ。ワンコインで広く町民が乗れるっていうような考えでいるということでもいいんですか。

角山企画政策課長

交通弱者という言い方が適切かわかりませんが、基本的にはそこが対象になると思いますが、現状の中では、世帯間の中で、そういう問題があったりだとか、これから、免許を返納するだとかっていうこともありますので、対象としては、町民に向けたサービスとして認識していただく必要があるかなということで、そういうお答えをしています。

斎賀委員長

ほかに、委員から意見ありませんか。

植村委員

以前から私たちが求めている地域交通ということに関して、このやり方でいくと、全町をカバーするということになるのは、3年以降になるのかなという感じがしてます。

実際、課長や職員の人たちも、町内の地域の交通というか高齢者の生活、住民の生活状態を間近に見て、今どのような状態になってるかっていうことは、わかってるはずだと思います。

先だっても、私たちの地域で、老人クラブの総会が行われました。総会をやるとうことで声かけても、集会所に集まってくる足がないと。おかげさんで、地域の代表者っちゅうか、有志の人が、老人クラブの会員ではないんですけども、車を出して、対象者を乗せて、総会ができたというような状況です。

調査するとか何とか言ってますけども、もうその段階ではなくて、もう実践に入っていくかかないとならないという段階に、もう、うちの町の状態になってるということ、1番先に私は訴えていきたいと思います。

このスピードでやっていると、3年も4年も後になっちゃうんじゃないかなと。

今問題になっている地方の交通体系は当然ですけども、町の中の交通体系ということに關しても、交通弱者の足の確保ということに対しても、どこまで、今現状で協議されて、具体化されているのか全然見えてこないんですよ。

話は、個人業者にお願いして、どうのこうのっていうことを聞くんですけども、行政として、どこまで踏み込んで協議されているのか。

以前から、私達の質問に、町長は全町を同時発進でこれをやりたいんだっていう話をして、本町だけではだめだし、問寒別地区も合わせてやりたいっていうことを前から言ってる。そうであれば、少なくとも、そういったことも含めて、やはりきちっと、実施をして、実行していくということになれば、今行おうとしている実証実験という、問寒別地区を中心にとこのスタイルでやっていくということになると、私は、先が遠くなるのでないかなと。

いや人がいないとかなんとかっていう話にすぐなりますけども、現状の中で考えると募集して人がいないわけがない。それなりに、行政としても、この大きな問題に資金を投じて、将来に向けて、深堀していかなければならないんでないかなと。

当座のやりくりだけでは、済む話ではないと思うんで、そこら辺を、少し、本当にスピード感を持って、やってほしいなっていうふうに私は思ってます。

まずは、この本町のほうの交通体系どんなことになっているのか、それも含めて。

角山企画政策課長

担当課としての範囲でのお答えとさせていただきますけれども、委員ご指摘のとおり、この地域交通に関しては、最初は、JRですとかバスですとかといった全体的な中で、これから減便等々ある中で、どうやってそこをカバーしていくのかっていうところから始まっているかと思えます。

ただ、その中で喫緊の課題として、地域公共交通について取り組むべき内容であるということが、だんだん、高齢化も進んでいる中、強まってきているかなということは感じておりますけれども、以前の担当課からの説明にもなるかと思うんですけども、行政で行う上で、持続可能である制度、こちらを構築するというようなことも、片やありますので、もちろんスピード感もご指摘のとおり、ちょっと進捗が見えないという話もありますけれども、一歩ずつではあるんですが、進めているというような状況であることをご理解いただきたいと思えます。

また、市街の制度については、以前からワンコインっていうお話もありましたけれども、行政で仕組みをつくって、それを、既事業者さんとの調整を図りながら、全体に波及させていくっていうこのスキーム、考え方については、恒例にのっかってやっているというのが現状でございますので、その中で、いろいろ、アンケートヒアリング等行ってきますので、お声をいただきながら、考えていきたい、進めていきたいというふうに思ってます。

植村委員

少なくとも、幌延町以外のほかの地域では、大なり小なり、この地域交通に関して、いろんな方策を打って、足の確保をして住民サービスに努めているというのが実態でないかなと思うんで、幌延町っていうのは、そういった問寒別地区があつて、離れてっていう特殊な条件がありますよという言い方だけでは、私は、納得させる理由にならないのかなというふうに思います。

現在、協力隊を10月までに3名を投入して、進めるんだという実証実験をしていくんだということなんですけども、これだけの人数が揃えば、私は、全町カバーできる体系が十分とれるんでないかなというふうな気がしているんですけども、いろんなやり方があるんだと思いますけども、ぜひ近隣のやり方を参考にしながらでも、もっと早く、幌延独自のという言い方すると、格好いいんだかもしれませんけども、一日も早くやっぱりこれはやっていただきたいなと思います。そのための事業費というのは、やはり、結構かかるもんだと私は思ってますし、それに対して、かかっても住民から何でそんなにお金かけるんだなんていう話には絶対ならないんじゃないかなということでないかと思えます。

是非とも、スムーズに、問寒別式とあわせて、ほかの地域も進めてもらいたいなというふうに思います。

ところで、下沼地区で個人で始めるっていうボランティア活動は、どんななっているんでしょうか。最近、耳にしてないんですけども、何か聞いていることがあれば、それも参考までに聞かせてください。

角山企画政策課長

まず前段の地域おこし協力隊のことについて少し補足させていただくんですけども、今年度の採用については、そういった集落を何とかしようっていう目的で募集している方ということで、隊員さんが任務についておりますけれども、実際に車両が入ったり、どういったニーズがあるだっという中で、車椅子の扱い方の勉強をしたりだとか、ニーズ的には、高齢者の方の対応をしていくためには、そういったちょっとした準備期間とかも必要で、それに、既に社会福祉協議会にご協力いただいて、勉強したりはしているんですけども、即というよりは、少しそういった部分のミッションできてるものの準備期間も必要だということもご理解いただければと思います。

また、下沼地区の事業者さんについては、近々の状況についてはお聞きしておりません。

ただ前年度の事業をこんな形でありましたみたいなことは、報告を受けてます。

今後、町も実証をやっていきますので、その中で集落支援員さんも下沼にお1人張りついていて、そこの状況なんかもよくご存じなので、月1回ミーティングやってますので、その辺は、直接聞くのか、間接的に聞きするのか未定ですけども、状況は把握しなければいけないなというふうに思ってます。

植村委員

ちょっと確認ですけれども、この通院支援っていうのもありますけれども、これは町内の通院ですかそれとも、第2次病院って言われるような名寄や稚内への通院支援なんですか。

角山企画政策課長

一義的には町内ということになります。どうしても車と人との兼ね合いでいくと、その間サービスができなくなってしまうということも考えられるので、今の状況では、まずは町内というふうな想定です。

植村委員

現状で通学、通院はわかりましたけれども、通学ではどのような状態になってるのか。

中学校まではスクールバスっていうのはわかりますけれども、豊富高校、天塩高校あると思いますけれども、どのような現状になってるのか、何かわかりますか。

角山企画政策課長

通学については、すいません正直申し上げて現状把握しておりません。

植村委員

私の知ってる範囲では、JRの一部利用だとか、自分の足で数キロ自転車に乗ったり、または、自宅のものに送られてバス停までという生活なのかなというふうに思いますけれども、それほど多い人数でないなとは思って、そこら辺のやっぱり町内の移動に関しても、支援対象の中に入れてもらえれば、それだけ、活動がきちっと計画的にとれるのかなというふうな気もするんですけれども、今のこの体制の中では、そういったところまでは、現状として考えられないでしょうか。

角山企画政策課長

現時点では、ご意見として承るというところで答弁させていただきます。

また買い物支援についても、それほどまだお聞きするわけではないんですけども、ニーズがあるよという話も聞いてますので、その辺も見ながら、いろいろ課題が出てくるんだろうなとは思ってますけど、それを鑑みながら、制度を検討させていただきます。

斎賀委員長

ほかにありませんか。

西澤委員

今、植村委員からもちょっと話があったんですけども、下沼地区においては、去年から動き出していて、私も一部報告も受けてはいるんですけど、動きとしての報告を受けているんですけども、下沼地区が動き出しているのと、問寒別地区においては実証実験を行っているということで、市街地地区に関しては、既事業所との調整をするっていうような話だったんですが、下沼地区が動き出して、問寒別地区が実証実験を開始するという話で、市街地の方の方が、取り残されている感が否めないっていう話になってしまうんですが、持続可能な事業として、全町をカバーできる地域交通体制をつくっていくっていうのと、そのサービスにおいては、それぞれの地域の事情があるので、統一したサービスではないっていう話は、お互い同じ認識だと思うんですね。

それなので問寒別の実証実験が今年度始まって、下沼地域が動き出してるっていうことを鑑みれば、町内の地域の動きというか、その体制づくりは、今年度中にして、来年度スタートさせるっていうことは可能だというふうに思っているんですがその辺はどうですか。

角山企画政策課長

まずは、お話を伺わせてもらうところから始めさせていただければと思います。

実証とは言え、手探りというか、初の試みでやっていきますので、トライとエラーというものも出てくる可能性もございますので、ただ、状況把握は同時並行でできますので、その中で、タイミングが合えば、順次ってというような考えでおります。

西澤委員

問寒別の実証実験と市街地区で行おうとしているサービスっていうのは違いますよね。

なので、問寒別の実証実験を待たなくても、市外地域のサービスは違うので、問寒別の実証実験を待たなくても、下沼地域で地域交通が動き出して、問寒別の実証実験を今年度始める以上、来年度は市外地域のサービスも開始できるんじゃないかという話です。

角山企画政策課長

その点については、鋭意努力してっていうような範疇でのお答えさせてください。

西澤委員

今回、町長の答弁でバイオガспラントの話で、企画で作り、作ったものを、結局、実施するときには、産業振興課で行う旨の発言があったので、この地域交通に関しても、企画政策で企画を立案して、実施の担当は、結局、地域住民課になるんじゃないかなというふうに思って聞いてたんですよ。

そうしないと、企画政策課が企画をし、実施も全部やるとなると、事業的に事業量がすごく多くなっていくので、そういうふうな捉え方で、今回の町長の定例会の答弁を聞いたんですよ。

そういうふうに話が流れるという前提で話をすると、地域、地域でサービスがちょっと異なると違うと。だけど、町内全域では地域交通体系というものを、これが幌延町の地域交通ですよっていう話になると、今、企画でやっている問寒別の実証実験と町でやろうとしていることっていうのは、サービスが違うので、そろそろ、企画の中で、市街地区はこういうものだっていうものをつくって、地域住民課に落とさないで、問寒別の実証実験を待ちます、検証しますって言って、それから町内のサービスを企画でつくって、それを地域住民課に投げると、先ほど植村委員が言ったように、3年も4年もかかっていくっていう話になるので、それをそうならないでしようっていう話なので、これは、課長の答弁ではなくて、町長に委員からそういう発言はあったということを伝えていただければなというふうに思いますっていうのが1点です。

市街地域のサービスって言ってるんですけど、それはワンコイン制度を考究ってあるので、それがどうなるかっていうのはまだ決まってないって言うのはあるんですけども、市街地区の移動なので、下沼で今行われているやつも、町には連れてきますけど、町の移動は、しませんということになっています。

問案別で実証実験やっているのも、例えば幌延市街地に連れてきても、町の移動っていう話にはならないと思うので、結局、先ほど言った対象者ってどうして決めなきゃならないかという、市街地域の人たちだけタクシーみたいな利用にサービスがあるんじゃないかと、市外地域外の人たちも、対象者になれば、市街地区を移動するためのサービスを受けられなきゃならないっていうふうに思っているんです。そういう考えで大丈夫ですか。

角山企画政策課長

細かい、ワンコインタクシーの話も出ましたけども、その中での運用ということであれば、他の自治体でもやっているように、区間を決めるとか、ある程度の縛りでやっていかなければ、運用する人数と兼ね合いも出てくると思いますので、もう隅々までっていうのは、なかなか、ほかの状況見ても乗り合いですとか、そういった中で、活用してもらっているのが、現実的な制度運用に市街はなると思います。

あと、前段の話でいくと、企画政策課としては、今、総合計画を策定しておりまして、これは、今度、基本計画の話になっていく中で、より具体の施策をつくっていくとか記載していくんですけども、やはりサービスというか、町民に求められるものっていうのがすごい多様化していった中で、課をまたがる業務であったりっていうのは、ほかの部分でもまちづくりの観点でかなり出てきていて、そこの整理整頓っていうのは、やっていくことになると思いますので、企画政策課がどこかかっていう、実施のスキームっていうのは、少し検討していかなければというふうに思っています。

西澤委員

そういった意味で、対象者っていうのを、早く絞っていかなければ、なかなか進んでいけないので、それはもう、やっぱ企画のほうの話なんだろうと思うので。

ただし、その対象者に関しても、把握してるのは、対象者を抱えている保健福祉課だったりするのが1番正確なんだろうと思うので、その辺の連携もとりながら、対象者を絞って事業を進めていってほしいなというふうに思います。

斎賀委員長

ほかにありませんか。

高橋委員

地域交通の実証実験っていうのは、問寒別地区を中心についていうことですよ。

これって、問寒別から幌延の市街地に来る交通っていうか、それも、今回の実証実験の中に含まれているのか、ちょっと伺いたいんですけど。

角山企画政策課長

実証実験については、問寒別から幌延市街、市街以外の郊外からの送迎っていうのは、実証実験の中では、やろうというふうに考えてます。

特に、介護予防事業については、幌延でやるのと問寒別でやるのと2事業あって、そこに参加される方って、市街全域にわたって、何人かいらっしゃるような状況なので、そこをやれば、声は拾えるのかなというふうに思ってるので、この事業については、タクシー事業者さんとの兼ね合いとかあるので、そこの隙間を保健師さんが送ってるっていうところに、我々が代わりにやろうというふうに考えているので、運用としては、その事業に参加する方っていうことになるんですけども、向かってくる先は、幌延市街になるんですけども、そういった市街を対象に声を拾っていくっていうようなことができるかなというふうに思っています。

高橋委員

そうしますとね。要するに、雄興、開進、上幌延って通ってきますよね。

この実証実験の中には、安牛の駅も上幌延の駅も来年度3月廃止されますよね。前は、地域交通のことも話したんですけど、今回、問寒から幌延に来るのに、雄興、開進、上幌延そ

ういう地域っていうのは、この実証実験の中には、入ってないってことなのかな。ただ素通りするだけっていうことなのかな。それとも、ここの人も対象にした実証実験になるのかなんですけど、その辺はどうなんですか。

角山企画政策課長

事業の参加者が、どこにお住まいかっていうところが基本なので、例えば、その地区にいらっしゃる方がこの事業に参加するということであれば、求めに応じて、送迎するっていうような形で考えております。

藤田議会事務局長

すいません。議会事務局なんですけど、前の担当ということで、今の角山課長の説明の補足させてください。

まず、地域交通の根本的な考え方で、去年からご説明しているのは、基本的に地域間の移動、例えば、問寒から幌延っていうのは、例えば、患者輸送バスで、病院の目的以外であっても、買い物に使ってください。あと、スクールバスと患者輸送バスの連携ですとか。だからスクールバスも、本来であれば、子供たち、中学生だとか小学生だとかしか乗れないんだけども、それを、例えば、町に行くときに、利用していただいて、朝であれば、それから患者輸送バスにつないで、それに乗って市街地区に来てくださっていうのが、まず基本的な考え方で、今、幌延町で考えている地域交通の基本は、まずそこだっていうことを説明していると思います。

もう一つなんですけれども、地域間、例えば、下沼ですとか、あとは、問寒別から幌延市外っていうのは、患者輸送バスのほかには、JRを利用してください。だから、地域交通でやっていくのは、例えば、JRまで行くのが遠いから、例えば、上幌延駅でも、安牛駅でも、今回は、廃止するっていうような町としての考え方を示していますけれども、その前提としては、今あるそのコミュニティ事業の中で、駅まで、まずは送迎するようなことを考えましょうと。だから、それで、南幌延駅を残して、経費のかかる上幌延駅と安牛駅は、廃駅にしても、そうすると、上幌延や開進の人たちが駅まで遠くなりますよねと。それを駅まで送るような地域交通を、JRを基本的に使うというようなことを前提にやっています。そうになると、乗り合いが可能と。例えば、JRを使って、幌延市街地まで行きたいということになるとJRの時間に合わせることになるので、JRを利用するお客さんというか、町民の方々が重なってくるんですけどもそこは、乗り合いで、できるんじゃないかっていうようなことを前は説明してます。

その考え方っていうのは、まずはそこから始めましょうっていうことは、議会のほうにもたしか説明してたんじゃないかなという記憶僕あるんですよ。

だから、まずはそこから始めて、確かに西澤委員がおっしゃるとおりに、市街地区にも交通弱者たくさんいるよねっていう話は、当然、私たちもわかっていて、ただ、そこは全町的な仕組みができて、まず地域交通も、例えば料金どうするかっていうことも、無償にするのか、例えば、市街地区がワンコインということを想定すれば、他から幾らにするんだっていうことを、今後、いろいろ話詰めていきましょかねって話してるわけです。

それで、市街地区のワンコインとかっちゃうのは、このクエスチョンマークじゃないんですけど、そういうようなことを考究っていう書き方を担当課でしているっていうことですよ。

だから、確かに、時間かかるって言われるのはそうそうなんですけど、今担当課のほうでNPO法人といろいろな話ししてる中では、拙速な制度をつくってしまうと、1回つくってしまうと、それって永久的なものになって、それが、全町的なものになっちゃうから、そこは、いろんな町の例をいろいろ調べてちゃんとしたものをつくりましょうねっていう話を今しますので、そういう話は、今年度に多分ずっとしていくと思います。

だから、それが全町的につながるような制度を、今、一生懸命、企画政策課で考えているっていうか、研究しているっていうことなので、今の地域コミュニティー事業で入ってきた地域おこし協力隊の人たちが、実際に町に入っていくって、どういうニーズがあるのかっていうのを調査しながら、交通体系作りましょうっていうことを言ってますので、3年4年まではかからないと思うんですけども、町としても、すぐやらなきゃなんないっていう認識はあるにせよ、拙速な制度はつくれないっていう認識もありますので、そこは勉強する時間ですとか、ちゃんとした取り組みをいろいろ調査する時間を与えてくださいっていう説明はしていたと思います。

西澤委員

全然ウエルカムです。前担当課の課長なので、全然ウエルカムですけど、それは補足ではなくて、前にいた課長の立場の意見だなというふうに思うので、それはそれでいいです。

ただ、今の局長の話でいうと、基本的にJRの補完するっていうような意味合いでいうと、そのときに出た議員の意見としては、利用が不便で利用してないのに、そこをJRにつなげるのはナンセンスだっていう話で、議員からの意見は出したし、今言っている、現担当課の課長は、買い物支援等も今後の案として載せていて、今、高橋委員が言ったように、実際、ここにこ教室の事業も街まで送迎してるので、JRつなげるっていうわけではないので、多少の方向の違いは今出てきてるんじゃないかなというふうに思います。

藤田議会事務局長

それは、事業の部分ですよ。

事業の部分は、最初は想定ななかったもので、今、企画のほうで、福祉サイドと連携して、その事業の送迎をするっていうのは、これは新たな取り組みだから、それは議員おっしゃるとおりですよ。

だから、今はそういうニーズを調査しながら、どういうことがベストなんだって、今やっている最中がから、そういう新しいことがどんどん出てくるっていうことだと思います。

だから、基本があって、そこから、どれぐらいの枝をつけるかっていうところが、やっぱり、議員さんと一緒に、今後、つくっていかなきゃなんない体系じゃないかなと考えます。だから今年っていうのは完成形ではないということです。

西澤委員

もちろん、その今年が完成形ではないのは、そうですし、現在担当課が来てるんで、ここで局長と議論を余り交わしても、何なので、これでやめましょう。

斎賀委員長

来年度までに、どうやるか決めるには、もう今年中に決めておかないと、来年度、予算もつかないわけだから、今年中に一体どこまでやるのか教えてください。

どういう結論を持ちたいのか教えてください。

角山企画政策課長

制度といたしましては、なるべく早くっていうのが、表現になります。

実際問題、来年度の予算という話になると、11月ぐらいから作成始まりますので、やはり、上半期のうちに、ある程度のものを出していかなければ、予算化できないっていうのが、実際の事務の流れとしてありますから、それは年頭においてやっていきます。

齋賀委員長

市街地区は、ワンコインって言っているけど、市街地区のワンコインで事業者が一体どこまで走ってくれるか。走ってくれないところは、全部、地域交通体系で補っていくっていうことになるんですか。

それとも、事業者と話して、ここまでだねっていう何か線引きとかなんかする予定なんですか。

角山企画政策課長

そこにつきましては、おっしゃるとおりで、調整は今までしておりませんでしたから、しっかりやらなければ、全町的な取り組みにできないので、既に事業を行っている方とのすり合わせっていうのは必要だと思ってます。

藤田議会事務局長

あと一つ先ほどの西澤委員の質問の中で、地域交通の担当は、企画だよ。

だから、企画の立場としては、企画だけではなくて、実施のほうも企画政策課っていうことだよ。

先ほど、副議長が言った「企画だけは企画でやって、そのあと、住民生活課のほうにつなげばいいんじゃないか」っていうような話あったけど、今の事務分掌上は全部、企画政策課になっちゃったんだよ。

(「そうです」の声あり)

そういう意味です議長、副議長。

口を挟んですみません。

西澤委員

今の話の流れでいうと、バイオガスプラントだって、現状はそうなってるけど、町長は定例会のときに、ああいう答弁になったってことでいいんですよね。

それとも、バイオガスプラントは、産業振興課がやるものだけど、企画だけは企画でやりますっていう話ですか。その担当課じゃないか、それは後で自分で確認します。

齋賀委員長

そうしたら、さっき高橋委員の言った実証実験で、問寒別が幌延に向かってくるときに、開進だとか雄興だとか、上幌延を拾うだとかというのは、どうなったんですか。

角山企画政策課長

介護事業に限定して話しますけれども、問寒別生涯学習センターでやるのと、幌延の保健センターでやるのがあるので、問寒別地区に雄興の方が参加されるのであれば、そこの送迎はやると。問寒別の実施場所に送り、幌延の実施場所の対象の住民の方で、参加者はその範囲で送るといような、今やる範囲としてはそういう括りです。

齋賀委員長

幌延に向かうときに、買い物行きたいんだ、通院するときに、利用される実験をするのか。使っていいのかっていうこと聞いてるんです。

角山企画政策課長

それは、今の実証実験の具体的にお話しできる範囲からは、次のステップだと思ってます。今は、介護事業で、まず試験運用を始めたので、これから町の事業で、例えばの話になりますけれども、幌延でやるものに対して、問寒別の人が移動を必要とする場合は、そこに応じて、動かしていくっていうのは、想定としてはあります。

高橋委員

前の課長さんが説明してくれたんですけど、駅の廃止になった場合は、要するに、最寄りの駅までの送迎をまず考えているっていう話ですよ。そのなくなった駅から幌延までじゃなくて、上幌延の駅がなくなったら、南上幌延の駅までの送迎を考えて、列車利用促進するっていう考えですよ。

それは、要するに来年の3月なんですけど、そういう体系っていうのは、これから、やっていって、3月廃止になるまでに、そういう体系を作れる可能性ってあるんですか。できるんですか。

植村委員

作っても、ナンセンスだ。そんな話はなかったことにしてもらわないとダメだ。

角山企画政策課長

地域交通の担当としての観点からいくと、既存のものを残すっていうことに対して、努力する考えもあります。また、それを補完する必要があるものに対しても、考える必要がありますので、例えばの話でしかないんですけども、患者輸送バスの時間帯、あとJRの時間帯がかなり限られておりますので、そういう駅までの繋ぎをやったとしても、補完できないケースが出てくるんじゃないかなと思ってます。そういうことも考慮しながら、制度のほうはつくっていくべきなのかなというふうには思っておりますが、既存の公共交通の利用促進という観点もあわせて、トータルで考えていきたいなと思います。

高橋委員

多分、使う人にしてみれば、駅までではなくて、やっぱり町に向かって、地域交通をつくってほしいのが、そこに住んでる住民に聞けば、それを望んでいると思うんですけど、町の方針の中の1番下のほうに、まず、問寒別地区を進めて、既存の業者と調整して、調整を経て、全町をカバーする仕組みをつくるっていうんですけど、既存の業者って、幌延は何社しかいないんですけど、これと話ってすぐ進められるんですけど、何回か話し合いをしてるんですか。

角山企画政策課長

私の記憶の範疇でしかお答えできないんですが、公式に正式に詳細にっていうことは、こちらからお話しする骨子みたいなものが整ってないっていうことも多分あったのではないかなと思いますので、正式な摺り合わせというか、協議までは至っておりません。

ただ、今回は、少し形も見えてきましたし、同時並行的に、なるべく早くというような喫緊の課題ということも認識して、今年度、そこはやらなければ全体をつくれないうという認識ではおります。

斎賀委員長

問寒別でしたら、もう車もあるし、運転手もいるんだったら、問寒別地区で実際に動かして、乗ってもらって、どうしたら良い、こうしたら良いっていうふうやっていく。

そう思ってよろしいですか。

角山企画政策課長

その辺につきましても、当初は、各種団体、サークルの総会とか例会とかで、お声を聞くってことを考えていたんですけれども、ちょっとその辺ができなかったっていうと、各戸に訪問をしていうことも、協力隊員が町外から来たということもあって、なかなかちょっとその辺の自粛等々で動きができてなかったんですけれども、今、2人隊員が問寒別の拠点で、全体的には公共交通以外のことも、取り組んではいるんですけれども、地域の方の声を聞くっていう体制はできつつありますので、そこは隊員さんを主にお聞きをして、できるかできないかっていうそういう問寒別の形をつくっていくという取り組みというのは進めます。

斎賀委員長

ほかにありませんか。

(「ありません」の声あり)

ではあと、今、企画で思っていることが進んで、またなにか情報が入りましたら、また、確認したことがあったら、随時、委員の皆さんと意見交換して、1日も早く、来年度予算に反映されるように、交通体系を検討していきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

それでは調査事項の地域交通についてをこれで閉じたいと思います。

3 その他。

(一同無言)

ないようですので、以上持ちまして令和2年第6回のまちづくり常任委員会を閉じたいと思います。

ご苦勞様でした。

(11時56分 閉 会)

以上、相違ないことを証するため署名する。

委員長 齋賀弘孝

以上、記録する。

主事 満保希来